

学習内容報告書 フォーマット

学校名	那智勝浦町立下里小学校
授業者	榎本 昭徳（第3学年） 山田 めぐみ（第4学年）

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

「くじらの博物館へ行こう！」

1-2. 学年

第3学年、第4学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

国語科、理科、総合的な学習の時間、学級活動

1-4. 単元の概要

隣接する太地町にある「くじらの博物館」の学芸員から、くじらやイルカの体のつくりや生態について学んだあと、実際に「くじらの博物館」を訪問し、生体に触れ学習する。

3年生の学習プログラム

- ①くじらやイルカの生態を学ぶ
- ②観察・比較しながら生態について深く学ぶ
- ③エサの種類や食べ方から捕食について学ぶ
- ④くじらやイルカの行動を観察する

4年生の学習プログラム

- ①くじら博士になろう～動物のなかま分け～
- ②くじら博士になろう～くじらはほ乳類？～
- ③ほねほねウォッチング（見学）
- ④学習のまとめ・発表

系統性のある学習になるよう、上記のように3、4年生で内容を変えて取り組む。また、両学年とも教科との関連を図り、体験したことや気付いたことを児童自身の感性で豊かに表現できるよう指導する。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

海の生き物に関わる施設の見学や体験を通して、海洋生物やそれに関わる人々に関心を持ち、学習したことを豊かに表現することを目標とする。

3年生：国語科「班で意見をまとめよう」「伝わる言葉で表そう」「わたしの学校じまん」との関連を図る。

4年生：理科「ヒトと体のつくりと運動」の学習と繋げ、科学的な視点で観察する経験を積む。

国語科「新聞を作ろう」「調べて話そう、生活調査隊」で学んだことをまとめに活かす。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・姿形は異なるが、クジラやイルカがヒトと同じほ乳類であることを理解し、生物の多様性に気付く。
- ・実際に生物に触れることで、子供たちならではの視点で観察し、見たこと、感じたことを国語科で学んだことを活かしながら豊かに表現する。
- ・体験活動や伝え合う活動を通して、主体的に学ぶ態度を育てる。

1-7. 単元の展開（全10時間）【4学年】

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	<p>【くじら博士になろう！①～動物の仲間分け～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードを使い、仲間分けをする。 ・仲間分けをするときの3つのポイントを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・太地町立くじらの博物館、学芸員の講義を受ける。（ワークシート、カード） ・教師は、後の学習で使う資料とするためクジラの生態や児童の学習の様子をカメラ等で記録する。 ・興味関心をもって話を聞いているか。 <p>【態度・ワークシート】</p>
2	<p>【くじら博士になろう！ ②～くじらはほ乳類？～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像や模型を使って、クジラの生態を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・太地町立くじらの博物館、学芸員の講義を受ける。（映像、模型等） ・教師は、後の学習で使う資料とするためクジラの生態や児童の学習の様子をカメラ等で記録する。 ・興味関心をもって話を聞いているか。 <p>【態度・ワークシート】</p>
2	<p>【ほねほねウォッチング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に骨格標本を動かしながらヒトの骨格、クジラの骨格について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・太地町立くじらの博物館、学芸員の講義を受ける。（映像、骨格標本、ワークシート） ・教師は、後の学習で使う資料とするためクジラの生態や児童の学習の様子をカメラ等で記録する。 ・興味関心をもって話を聞いているか。 <p>【態度・ワークシート】</p>
1	<p>【くじらの博物館を見学しよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学芸員の解説を聞きながら館内を見学し、これまでに学習してきたことを確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は、後の学習で使う資料とするためクジラの生態や児童の学習の様子をカメラ等で記録する。 ・興味関心をもって話を聞いているか。 <p>【態度・ワークシート】</p>
4	<p>【まとめて発表しよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習してきたことを新聞やプレゼンボードにまとめる。 ・発表用の原稿を書く。 ・発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「何を伝えたいのか。」聞き人に分かりやすくまとめるよう指導する。 ・書いた文章を読み返し推敲させる。 ・聞く人が楽しめるような発表になるよう工夫させる。 ・伝わりやすい声の大きさ、速さ、間のとり方など工夫させる。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4、5 時間目

2-2. 本時の目標

「くじらの博物館」の学芸員さんからクジラの体のつくりや生態を詳しく聞いたり、実際にクジラやイルカを観察したりして人の体のつくりと比較する。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<ul style="list-style-type: none"> ・クジラの体のつくりや生態について学芸員さんから講義を受ける。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に標本を触り、動かしながらヒトの骨格について学習する。 <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学芸員さんの話から「わかったこと」「驚いたこと」などをワークシートに記録する。 ・学芸員さんの案内で、記録を取りながら館内の標本を見学する。 ・海洋水族館でイルカの泳ぎ方や体の各部の特徴などを観察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館内での安全に関する諸注意を行う。 ・全ての児童に、学芸員さんの話が聞こえるか注意し必要に応じて、補足説明を行う。 ・児童の様子や、講義の内容などをカメラ等で記録する。 ・興味関心をもって学芸員さんの話が聞けているか。 【態度、ワークシート】

3. 今回の活動の自己評価

実際に見たり、触れたりすることで、全ての子どもたちが高い関心を示して学習プログラムに参加することができていた。地域柄、海の生き物に対して知識をもっている児童が多いが、くじらの博物館の学芸員さんの専門的な話を聞くことで、より深いものにできていた。また、その場で感じた疑問に対してすぐに答えてくださり、子どもたちも意欲的に知ろうとしていた。

また、国語科でのわかったことや考えたことをまとめる学習や、発表する学習では、「他者に伝えたい」という気持ちが高まり、意欲的に学習に取り組むことができていた。

クジラの体のつくりや生態についての学習のみならず、捕鯨という地域の歴史についても知る機会となった。

4. 今後の課題

今年度は感染症のため、計画通りにできなかった部分もあったが、実施できる範囲で子どもたちも学習することができた。ここ数年、「くじらの博物館」は、学芸員を中心とした学習プログラムを地元の太地小学校と連携して発展させてきている。今年度は本校でもその学習プログラムを取り入れ、例年とは違う内容で、3・4年生の発達に応じた別カリキュラムを編成して取り組んだ。今後も、本校の実態に合わせて海洋教育に取り入れ、発展させていきたい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。